

優 秀 賞

安全な水を広げるために

水戸市立第四中学校

一年 関 琉 惺

僕は小学生の時に、逆川エコクラブに所属していて、自然のこと・魚・鳥・虫について色々なことを学んでいました。その中で、魚の住みよい水質について興味を持ち、茨城県で唯一「ラムサール条約」に登録されている涸沼に住んでいる水鳥や涸沼に生息している魚について学び、ビオトープ作りをしました。そして、子供ネイチャーガイドの資格を取りました。ビオトープとは、水鳥や魚達が生きやすいように草を植える作業のことです。クラブの先生に教わりながら、みんな泥だらけになりながらの作業は大変でしたが、楽しく良い経験になりました。

ラムサール条約とは、一九七一年にイランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための

国際会議」において「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択された条約のことです。涸沼は茨城県・鉾田市・大洗町・茨城県が協力して「ラムサール条約」の登録をすることができました。僕は、涸沼で毎年、ハゼ釣りをしているのですが、年々釣りのできる期間が短くなっている、温暖化の影響なのか、水質の悪化なのか心配になります。僕は、涸沼の子供ネイチャーガイドの資格を持っていますが、もっと勉強をして観光客の方に説明をできる大人のネイチャーガイドの資格も取りたいと思っています。そのためには、もっと生き物について勉強が必要になります。

日本は水の豊富な国ですが、残念ながら「海・湖・川」も汚れている場所がとても多いです。それでも、日本の水道から出てくる水はとてもきれいで世界一美味しい水です。世界では、水道のない国もたくさんあります。水道もなく、雨水だけで生活している国もたくさんあります。アフリカ諸国では、整備されていない池や川・湖から水を汲むために学校へ通えない子供達がたくさんいるそうです。一日

に八時間以上を水汲みに必要とする子供達が三百三十万人もいるとニュースで見ました。大人でもつらい作業です。きっと僕よりも小さい子供達が勉強することもできず生活しているのです。それでも水がなくては生きていけません。家族のため、自分のために水を汲まなければいけないのは悲しいです。またドイツは、年間降水量がとも少なく、雨水利用の先進国だそうです。二〇〇五年に雨水規格を導入しました。十年かけて作成された雨水規格は「計画・施工・運用・保守」「フィルター」「雨水貯留槽」「制御と監視のための装置」で構成されていて、EU規格や国際規格にしようとしているそうです。他にもベルギーでは住宅での雨水の活用や一時貯留を定めていたり、イギリスでは雨水の浸透や保水可能な排水システムの開発推進をしていたりするそうです。日本でも、二〇一四年に雨水利用を推進する「水循環基本法」と「雨水利用推進法」の二つの法律ができました。年々増えている集中豪雨の時に地下タンクに雨水を貯水するシステムなどが作られているそうです。貯水した雨水は、災害時のトイレの

流し水に使えたり、火災が発生した時の備えにしているそうです。温暖化によって大雨が増えているので、そのようなシステムができてるのは心強いと思います。

日本のように蛇口をひねればきれいで安全な水が出てくる幸せを世界中の人に体験してほしいです。近い未来、日本から貯水技術やろ過技術を伝えて、きれいで安心・安全な水を使えたらと思います。八時間の水汲み作業ではなく、勉強することができる子が増えますように願います。